

1. 件名：「電源開発株式会社大間原子力発電所の地震等に係る新規規制基準適合性審査に関する現地確認について」

2. 日時：令和4年10月6日（木）16時00分～17時45分

3. 場所：電源開発株式会社（東京都中央区銀座）

4. 調査者

原子力規制庁

地震・津波審査部門

岩田安全管理調査官、三井上席安全審査官、佐藤主任安全審査官

5. 対応者

電源開発株式会社 杉山取締役副社長執行役員、首藤執行役員、他9名

6. 要旨

(1) 新規規制基準適合性審査の一環として、原子力規制庁は、電源開発株式会社において、大間原子力発電所の敷地の地質・地質構造の審査において論点となっているシームS-11の活動性評価に係るボーリング調査のコア試料等により、以下の内容について確認した。

- ① シームS-11が確認される易国間層、大間層の代表的な岩種、岩相
- ② シームS-11が確認される層準の細粒凝灰岩等の状況
- ③ シームS-11による第四紀層の変状が認められる箇所及び認められない箇所の岩盤性状
- ④ 重要施設付近のシームS-11及びその付近の岩盤性状
- ⑤ 敷地内におけるシームS-11の分布状況

(2) 現地確認の結果、電源開発株式会社に対して、提示された試料等は、これまでの審査会合において提示された調査結果の元データを確認したものであり、説明内容としては理解したこと、また、シームS-11の活動性

評価については、第1043回審査会合（2022年4月22日）において評価方針を示すことを求めているため、引き続き検討するよう伝達した。

(3) これらに対して、電源開発株式会社から了解した旨の回答があった。

7. 提出資料

- ・ 大間原子力発電所 新規規制基準適合性審査に関わるボーリングコア観察資料（シームS-11の性状等）